

5. 後期授業参観報告

平成 28 年度においても、教員の授業の教授法改善等を目的として、後期に授業参観を実施した。実施要領を以下に示す。

【実施手順】

- ・実施期間内にて対象授業の参観を実施する。
- ・参観者は教室内で対象授業の参観を行い、参観レポート（添付資料）を記入する。（当該レポートの様式は、後日メールにて配布する。参観を希望する教員は自身で印刷して参観に参加する。
- ・参観は業務等の関係もあるので教員への参加強制はしないが、できるだけ多くの教員に参加してもらう。
- ・参観レポートは、各キャンパスの「学生支援課」窓口へ提出する。取りまとめ後に参観授業の担当教員へ渡す。

参観対象授業の一覧

学科/ センター	教員氏名	実施日	時間	科目名	受講者 (学年)	教室	備考
環境園芸	山口 健一	1月17日(火)	1限目	総合防除論	94人 (3年生)	都城キャンパス 1205	
	北村 泰一	1月18日(水)	2限目	水辺環境論	40人 (2年生)	都城キャンパス 1103	
	平岡 直樹	1月20日(金)	1限目	都市計画論	47人 (3年生)	都城キャンパス 1205	
管理栄養	甲斐 敬子	1月10日(火)	3限目	臨床栄養学 実習Ⅲ	30人 (3年生)	宮崎キャンパス 1115	
	竹之山 慎一	1月30日(月)	3・4限目	食品加工学 実習②	35人 (2年生)	宮崎キャンパス 1606	実習時間: 13:10~15:35
食品開発科	紺谷 靖英	1月17日(火)	2限目	生物化学Ⅱ	35人 (1年生)	宮崎キャンパス 1403	
	柏田 雅徳	1月17日(火)	3・4限目	食品開発実習 Ⅰ	38人 (2年生)	宮崎キャンパス 1606	
子ども教育	酒井 喜八郎	1月17日(火)	3限目	教職実践演習	32人 (4年生)	都城キャンパス 小児保健実習室	
教養教職	スモール・ ブライアン	1月18日(水)	3限目	英語コミュニ ケーションⅡ	20人 (1年生)	都城キャンパス 1208	

後期授業参観の結果の詳細については、本学の学科構成を考慮して、学科・センター別に以下に結果を示す。

(1) 環境園芸学科

1) 授業参観の開催数と参観者数

FD推進委員会では、1学科当たり2つの授業参観の開催を標準として提案しているが、環境園芸学科では例年3授業を開催している。参観者数は、昨年度は計8名であったのに対し、本年度は15名であった。大学全体としては、昨年度比2.2倍の参観者数であったが、本学科では倍増には届かなかった。授業参観への参加者からは、自身の授業の参考になったとか、有意義な刺激を受けたとの印象が伝えられているため、さらに参観の機会を促すための対応策を検討する必要がある。

平成28年度 環境園芸学科授業参観と参加者数

教員氏名	実施日	科目名	受講者 (学年)	参加者数	アンケート 回収数
山口 健一	1月17日(火)	総合防除論	94人 (3年生)	7	6
北村 泰一	1月18日(水)	水辺環境論	40人 (2年生)	4	1
平岡 直樹	1月20日(金)	都市計画論	47人 (3年生)	4	1
計				15	8

2) 授業参観アンケート

参観者数15名の内、アンケートの提出があったのは8件であり、半数近くの参観者が、授業提供者へのフィードバックの機会であるアンケートを提出していない。引き続き、参観者数の増大と合わせてアンケート提出の促進をはかる必要がある。授業提供者がアンケートを通じ、より一層の教授法改善などのFD推進につながると考えられる。

(2) 管理栄養学科

(対象授業)

授業①： 甲斐 敬子 教授 1月10日(火) 3限 1115教室
臨床栄養学実習Ⅲ

授業②： 竹之山 慎一 教授 1月30日(月) 3・4限 1606教室
食品加工学実習②

(参観者)

授業①： 0名

授業②： 5名

(課題)

- ・ 教授会・学科会議等での周知は出来ているが、今後も学科内での参加促進を図る必要があると考える。
- ・ 授業①に関しては、十分な周知期間がとれなかったためと考えられる。

参観の準備は整っていたにもかかわらず、それがいかせなかったのは残念である。今後、授業参観実施期間については、余裕をもって設定した方が、授業実施者・参観者ともに調整しやすいのではないかと考えられる。

- ・ 授業②には5名の参加があった。実施後のアンケートにより、それぞれ「授業の長所」に言及した上で「自分の授業や業務に取り入れたい点」や「参観した授業の改善に参考となる意見（アドバイス）」についても多くの意見が寄せられ、授業参観を通じてお互いの教育力向上の機会になったと考えられる。

(3) 食品開発科学科

1) 対象授業

2名の教員が担当する下記科目を授業参観対象科目として実施した。

日時	授業科目	担当教員	参観者	
1月17日(火) 2講時	生物化学Ⅱ	紺谷	3名	横堀仁志、黒田年洋、山下博
1月17日(火) 2、3講時	食品開発実習Ⅰ	柏田	3名	岩田賢士、中瀬昌之、外山英男

2) 参観結果

授業参観は、授業実施教員の改善につながる可能性のみではなく、参観者にとっても、自身の授業改善に対する意識を必要に応じて高めることにもつながると考えられているが、今回の参観者は上記のとおりである。この結果に対しては、さらに改善する必要がある。今後は、参観義務化の必要性の有無を検討することも選択肢の一つと考えられるが、授業参観の必要性についても検討する必要がある。さらに、校務の多忙化により、参加したくとも参加できなかったケースがあると思われるので、その点についても検討が必要であろう。

(4) 子ども教育学科

本学科では、2017年1月17日(火)、下記の教員による参観授業が実施された。

○3限目 酒井 喜八郎 講師 「教職実践演習」 参観者8名

本講義では、ワークショップ形式をとり、グループ討論等も交えて学習が主体的に学べるよう工夫されたものであった。また、スマートフォンを使って調べ物をするなど、積極的な身近な情報機器の活用がなされていた。

(5) 教養・教職センター

平成 28 年度 教養・教職センター参観授業と参加者数

担当教員名	参観授業名	実施日	参加人数
スモール	英語コミュニケーション II	1 月 18 日(木)	3 名

平成 28 年度 センターの FD 委員が参加した参観授業

担当教員名	参観授業名	実施日
酒井 喜八郎	教育実践演習	1 月 17 日(火)
北村泰一	水辺環境論	1 月 18 日(水)
平岡直樹	都市企画論	1 月 20 日(金)

課題

センターの FD 委員、スモール、ブライアンは授業参観を 3 回して、センター会議でその経験を共有した。別の学科の先生はプレゼンと別にクイズ用紙を準備して授業を進めた。アクティブ・ラーニング式のディベートを学生に紹介する授業もあった。いろいろな工夫が参考になった。参加者として刺激が多くてより詳しく知りたい気持ちが残った。教育実習の参加型学習の話と、水辺環境と浸透性の考え方と、都市企画論と防災やグローバル化の話をとくさん続けて行きたい。それぞれの分野について「センス・オブ・ワンダー」と熱意を感じた。

参観授業に行ったら、教養センターの基礎的な英語の授業は別の分野の授業に上手く繋げることできるか考える。今のところリチャーズとギブソンの「絵で見る英語 Book 1」を主に使っているけど、将来に「Book 2」と「Book 3」も使えるようになったらそれぞれの学科の授業に繋りやすくなる。

教育の授業を見たら、「Book 3」の最後のところが思い浮んだ：